

新・市総合計画「ふるさと・いわき21プラン」の概要

基本構想（平成13～32年度）

めざしていく「いわき」の姿

- 1 循環を基調とした、持続可能なまち
- 2 誰もが安全に、安心して暮らせるまち
- 3 活力に満ち、創造力あふれるまち



改定後期基本計画（平成28～32年度）

←【一体的な推進で相乗効果を発揮】→

7つの取り組みの柱

柱：復興 震災前にも増して 重点戦略

これからの5年間で、震災前にも増して、つながりのある、暮らしやすい、将来にわたって持続可能な「まち」になる、真の復興に向けた期間（復興・創生期間）になります。引き続き、震災からの復興にしっかりと取り組みます。

- くらし（住まいとコミュニティづくり／放射性物質を取り除く／真の復興を成し遂げる）
- しごと（「なりわい」と「にぎわい」を取り戻す／廃炉とイノベーションを進める）
- 防災（災害に備える／いのちを守る）
- 共生と感謝（つながりを深める／復興の姿を発信）

柱1：美しい環境を守り、育てあう

- 再生可能エネルギー（地産地消で循環を生み出す／クリーンエネルギーのまち「いわき」をつくる）
- ごみ・資源（ごみを減らす／ポイ捨て・不法投棄をなくす）
- 自然を守り、引き継ぐ（自然をまもる／自然にふれる／自然をつなぐ）

柱2：心をつなぎ、支えあう

- 共に生きる（認めあい、理解しあう／共に生きる／出会い・結婚する）
- 産む・育てる（いわきで産む／いわきで育てる）
- 健康と医療（健康に過ごす／医療体制を整える）
- 住み慣れた地域で暮らす（暮らしたいところで暮らす／助け合う／仕組みをつくる）
- 暮らしの安心（暮らしを安全にする／暮らしを安定させる）

柱3：学びあい、高めあう

- 教育（幼稚園・保育所を充実する／小・中学校を充実する／高校・大学等を充実する）
- 生涯学習・生涯スポーツ（生涯学習／生涯スポーツ）
- 歴史・伝統・文化・芸術（歴史・伝統を学び、伝える／文化・芸術にふれる、創る）

柱4：魅力を育み、磨きあう

- まち（暮らしやすいまちをつくる／にぎわいのあるまちをつくる）
- 中山間地域・沿岸域（地域の核・拠点をつくる／域内循環で地域をおこす）
- 住まい・住み良さ（より住みやすくする／計画的に土地利用する）

柱5：活気を生み、力を伸ばしあう

- 働く（いわきで働く／自分らしく働く）
- 稼ぐ力と経営力（担い手を確保する／新たな産業を創る／創業を支える）
- 農林水産業（攻める・稼ぐ／基盤を固める）
- 工業・商業・サービス業（工業力を高める／商業・サービス力を高める／中小企業・小規模事業者等を支える）
- 観光（戦略を立てる／お越しいただく／おもてなしする）

柱6：交わり、連携を強めあう

- 人と人・地域と地域（つながりを増やす／新たに呼び込む／情報でつなげる）
- 交通基盤・移動手段（道路を整備する／交通を確保する／自転車を活用する）
- いわきブランド（いわきブランドを創る／プロモーション・発信する）

地域創生 重点戦略

※詳しくは、4・5ページをご覧ください。「いわき創生総合戦略」を策定し、人口減少に歯止めを掛け「いわき創生」に最優先で取り組みます。



沿岸域があり、市街地があり、中山間地域があるという多様性がいわきの魅力

後期基本計画を改定

市は、平成二十三年度から三十二年度までの十年間を計画期間とする、新・市総合計画後期基本計画を策定しています。

同計画は、本市のまちづくりの指針となる、新・市総合計画基本構想に掲げる「めざしていく『いわき』の姿」（次ページ参照）の実現に向けた、具体的な取り組みを総合的・体系的に定めたものです。

東日本大震災の影響や、社会経済情勢の変化に適切に対応し、今後五年間、基本構想に掲げるまちづくりの着実な推進を図るため、同計画を改定しました。

改定のポイント

○「わたしたちの計画」を共創・共有

さまざまな主体が、これからのいわきを共に創り上げていく「わたしたちの計

画」とするため、行政が取り組まなければならないことに加え、市民・事業者・各種団体の皆さんが取り組んでいることや、協力していただきたいことを記載しています。

そして、今後、私たちが何をしていくのかを、皆さんと共有するため、簡易な表現などを用い、分かりやすいものにしました。

○選択と集中で取り組みを明確化

特に力を入れていく重点戦略に「地域創生」と「復興」を設定しました。

加えて、力を入れていく取り組みを、広く浅くではなく、七つの柱ごとに選択・集中することで明確にしました。

○基本構想の先を見据えた新たな視点を追加

基本構想の計画期間が、平成三十二年で終了するため、その先を見据えた新たな視点を追加しました。

▼コンパクトとネットワークで地域の拠点形成

人口減少の中、効率的に行政サービスを提供するため、まちのコンパクト化を進め、それぞれの地域でコミュニティが維持できるような、拠点と仕組みづくりを行います。

さらに、より広範囲で地域の活力を生み出すため、各地域の拠点間のネットワーク化も図ります。

▼活動人口を増やす

総人口が減少しても、活動人口（社会活動の参加人数）が増えていくまちは、活力にあふれています。

本市に愛着と誇りを持つ方を増やし、その方たちが活動の輪を広げていくことで、活動人口を増やし、地域の活力を維持します。

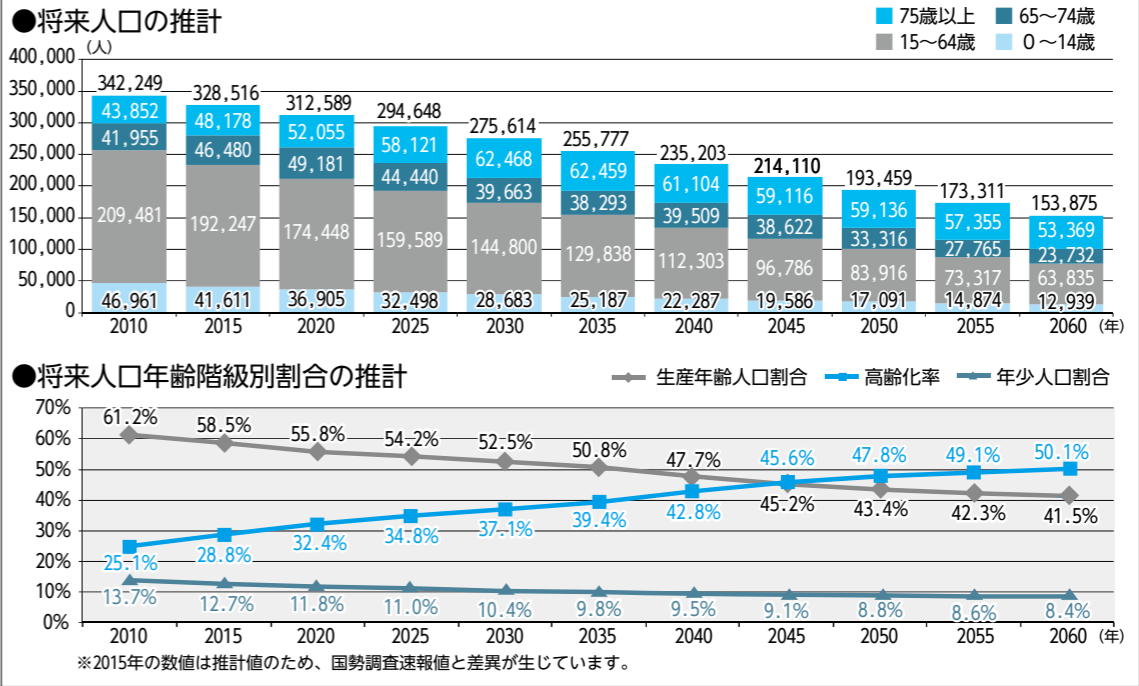
お問い合わせ

行政経営課行政経営係
☎ 22・1216

いわき創生総合戦略を策定

特集

〈図1〉本市独自の将来人口推計



人口減少の進行と地域社会への影響

少子高齢化の進展に伴い、国は二〇〇八年をピークに、人口減少社会に突入しています。本市は、一九九八年の約三十六万人をピークに、全国平均より十年も早く人口減少に転じています。人口減少は、地域経済やまちの活力の衰退など、地域社会全般に影響を及ぼす極めて深刻な問題です。本市独自の将来人口推計では、総人口は二〇四〇年に約二十三万人、二〇六〇年には約十五万人となり、二〇四五年には生産年齢人口割合と高齢化率が逆転し、二〇六〇年には高齢化率が人口の五割を超えることとなります（図1）。

将来にわたりまちの活力を持続させるために

そこで市は、人口減少に歯止めを掛け、今後二十年

先、四十年先も、本市が「魅力と活力にあふれたまち」であり「市民がいきいきと幸せに暮らせるまち」であり続けるために、将来のあるべき姿や方向性を導き出す「いわき創生総合戦略」を策定しました。

同戦略は、新・市総合計画改定後期基本計画の重点戦略「地域創生」に取り組みを進めていきます。

「いわき創生」に向け目指すべき方向性

市では、二〇三〇年約三十万人、二〇六〇年約二十二万人の人口維持を目指します。そのために、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を実現させるための環境を

整えます。さらに、若者の首都圏等への流出を防ぎ、外からの新たな人の流入を促すなど、人口の自然動態と社会動態の双方を改善することで、人口減少に歯止めを掛けます。

また、次世代を担う人材の育成に力を注ぎ、地域が人を育て人が地域をつくる、人づくりとまちづくりの好循環をつくりまします。そして、本市の特徴である地域資源の「多様性」を最大限に生かして、産業振興や外からのヒト・モノ・カネの呼び込みを進め、活力を生み出すことで、人口が減少しても、将来にわたって、まちの活力を維持していきます。

今後は、三つの基本目標（図2）を掲げ、行政はもとより、事業者や地域団体、市民の皆さん一人一人が知恵と力を結集し「いわき創生」に向けた取り組みを進めていきます。

〈図2〉いわき創生総合戦略の基本目標

“人づくり”と“まちづくり”の好循環を生み出す
～地域が「人」を育て、「人」が地域をつくる～

人のエネルギー

IWAKI ENERGY
いわきの元気・活力・底力

地のエネルギー

市民からも市外からも“選ばれるまち”をつくる
～いわきの強みや深みを見つめ直し、地域の力を最大限に生かす～

産業のエネルギー

地域に培われた“生業”を磨き上げ、伸ばす
～炭鉱の閉山や東日本大震災を乗り越えた“底力”を発揮する～

- 子どもから大人まで、誰もがいわきの歴史や文化を知る機会をつくり、市民の誇りや郷土愛を醸成していきます。
- いわきで育った人が、また次の世代を支え育てる風土をつくりまします。
- 子育てしやすいまちを、未来を、私たち皆で築いていきます。
- 地域に活力・活気を生みだし、イノベーションの気風を育てていきます。
- 新しいことに一歩を踏みだし、失敗にもまた立ち上がるチャレンジ精神を育てていきます。
- セカンドチャレンジができる、まちを目指していきます。
- エネルギー資源の域内循環を進めていきます。
- 全ての産業において、稼ぐ力の向上を目指していきます。
- いわきの多様性に富んだ地域資源をあらためて見詰め直し、掘り起こし、深めます。
- 温暖な気候と豊かな自然、海と山に囲まれた美しい土地の魅力を生かし、文化やスポーツの舞台としての魅力を磨きます。
- 市民自身がいわきの魅力を満喫することで、市外の人々にも面白く、分かりやすく伝えていきます。

第1回市ものづくりアワードを授与

同賞は、国および公共性の高い団体から、非常に優秀で高度な表彰を受け、市内の他事業者や市民に勇気と希望を与え「ものづくり都市いわき」を広くアピールした市内の事業者に対し、その栄誉をたたえ、さらなる企業経営・地域産業の発展につなげていただくことを目的に表彰するものです。



- ▶東洋システム株式会社＝常磐西郷町 第10回ニッポン新事業創出大賞アントレプレナー部門「中小企業庁長官賞」および「復興賞」を受賞した栄誉をたたえました。
- ▶古河電池株式会社＝常磐下船尾町 第6回ものづくり日本大賞「経済産業大臣賞」を受賞した栄誉をたたえました。

表彰 平成27年度市農林業賞

同賞は、市の農林業の発展等に顕著な実績のあった農林業者などを表彰するものです。

- 団体の部**
 - ▶JAいわき市ねぎ部会＝四倉町狐塚 ねぎ生産を安定的産業として振興させ、6次化商品の開発等や、環境に配慮した農業に取り組むなど、農業の発展に貢献しました。
- 青年の部**
 - ▶白石長利さん(34)＝小川町下小川 風評払しょくに取り組む農業者の中心として、本市農業の魅力発信に尽力するなど、若手農業者の手本となる活動に貢献しました。
- 貢献の部**
 - ▶萩春朋さん(40)＝内郷御台境町 いわきの生産者や食の魅力を積極的にアピールするなど、いわき産農産物の活用と風評払しょくに寄与しました。

お問い合わせ
地域創生課
☎22・7025